シーメンス
会社案内

TRANSFORM THE EVERYDAY
テクノロジーが毎日を変える

SIEMENS

ORIGIN & HISTORY

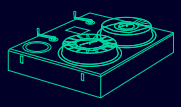
Transform the everyday

その積み重ねが持続可能な未来を紡ぐ

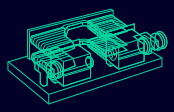
先端の技術力で、人々の毎日をより豊かに変革したい――
この強い意志こそが、170年以上にわたる歴史を持つシーメンスの原点であり、
絶え間ない技術革新や事業拡大を支えてきた原動力でもあります。
その歩みはこれからも止まることはなく、世界中のお客様とともに、
サステナブルな企業活動と産業社会の実現に貢献し続けます。

エネルギーを込めて本気で口にする
「I want!」という言葉には強い魔力があります。
もちろん、障害やまわり道を恐れず、
一瞬たりとも目標を見失ってはなりません。
ヴェルナー・フォン・シーメンス
1816〜1892年

1847
ポインターテレグラフ
（電信機）を開発し創業

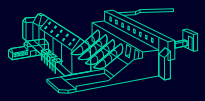


1866
ダイナモの発明により
電気が日常生活に

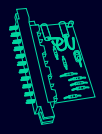


1879
世界初の電気鉄道を公開し、
2年後に事業化

1925
水力発電所による
電力供給を実現



1959
電子自動化装置「SIMATIC」
によりオートメーション化を牽引



インダストリー 1.0
手作業から蒸気機関による
機械生産へ

インダストリー 2.0
電力を駆使した
大規模生産へ

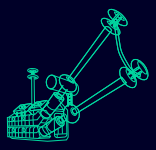
技術は社会に貢献するためにある—創業者の信念を今に受け継ぐ

シーメンスの歴史は1847年、当時30歳のヴェルナー・フォン・シーメンスが、ドイツのベルリンで電信機の開発に成功した瞬間から始まりました。この創業者が抱いていたパイオニア精神と創意工夫、そして社会貢献への意思は、それから170年以上を経た現在もなお「企業は利益の最大化のみを求めるのでなく、技術や製品、従業員の行動を含めたあらゆる企業活動において、社会に貢献するものでなくてはならない」というシーメンスの企業理念として受け継がれています。

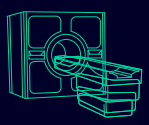
シーメンスの歴史は、産業社会のイノベーションの歴史

創業者ヴェルナー・フォン・シーメンスが活躍した19世紀後半は、今日で言う第二次産業革命のただ中。創業のきっかけとなった電信機が遠隔地とのコミュニケーションを可能にし、グローバリゼーションの端緒を開きました。第二次産業革命から20世紀後半の第三次産業革命、リアルとデジタルの融合が進むインダストリー4.0(第四次産業革命)においても、シーメンスの開発した技術や理念が社会に新たな変革をもたらしています。

1975
高圧直流送電(HVDC)の性能を飛躍的に向上



1983
磁気共鳴画像診断装置(MRI)を開発し医療に革新をもたらす



インダストリー 3.0
エレクトロニクスとITによる自動化へ

2010
オートメーション技術を推し進めた「TIA ポータル」

2012
洋上風力発電向けタービンの試運転を開始

2016
クラウドベースのIoTオペレーティングシステム「MindSphere」

インダストリー 4.0
リアルとデジタルが融合したサイバーフィジカルシステムへ

2022
オープンデジタルビジネスプラットフォーム「Siemens Xcelerator」

FIELD & SCALE

Transform the everyday で産業社会の変革をグローバルに支える

毎日を変革するというシーメンスの理念は、
産業社会の根幹を担う様々な分野で、幾多の変革を実現してきました。
また、その活動は国境や言語・文化の壁を越え、グローバルに拡大を続けてきました。
そして今、シーメンスが提供する技術や製品、ソリューションは、
世界中あらゆる人々の毎日を支えつつ、絶えることなき変革を牽引しています。

Industry

第二次産業革命の幕開けとなった製造の電力の導入や機械化など、製造業をはじめとした産業界の自動化・最適化ニーズに応え続けてきたシーメンス。現在も多くの企業のDX(デジタルトランスフォーメーション)を強力に支援しています。

Infrastructure

ダイナモを原点とするエネルギー技術と、火災警報システムを端緒とするビル管理技術。シーメンスは、それぞれ高度に発展し、スマート化した両分野を融合させることで、快適かつ効率的、そして持続可能な社会インフラを構築しています。

世界190カ国以上で、
約32万人が変革をもたらす技術を提案

通信技術からスタートし、発電技術で飛躍を遂げたシーメンスの事業は、自由で柔軟な発想と、「困っている人の課題を解決したい」との想いを原動力として、幅広い領域に拡大。産業、インフラ、交通・輸送、医療といった社会の根幹を支える4領域を中心に、多彩なビジネスを展開しています。事業領域の広がりとともに、その規模もグローバルに拡大。現在は、産業界をリードするテクノロジー企業として世界190カ国以上に約32万人の従業員を擁し、事業規模は年間約778億ユーロに達しています(2023年9月時点)。この数字こそ、シーメンスの技術と信念が、世界中の人々に歓迎されている証と言えるでしょう。

Mobility

人やモノを安全・確実かつ効率的に運ぶ交通・輸送網は、産業社会になくてはらない存在です。シーメンスは、電気鉄道の開発によってモビリティの概念そのものを変革して以来、世界中で交通・輸送の付加価値を高め続けています。

Healthineers

医療の電子化・デジタル化を牽引することで、多くの人々の生命と健康を守り続けてきたシーメンス。近年の新型コロナ禍においても、医療従事者を支える数々のソリューションを提案しています。

VISION & STRATEGY

Transform the everyday で新たな時代を導く

シーメンスが刻んできた変革の歴史は、時代ごとの社会課題を解決してきた歴史でもあります。
現代社会もまた、大規模な環境変化を背景に、多様かつ深刻な課題に直面しています。
私たちの社会が、そしてそこに生きるすべての人々が、より豊かな未来を歩んでいけるよう、
シーメンスは「デジタル」を軸とした先進技術を駆使して、
これからも社会に新たな変革を提案し続けることをお約束します。

現実世界とデジタル世界をつなぐことで、よりサステナブルな社会づくりに貢献

高齢化の進展や不均質な人口増加、気候変動や資源枯渇など、社会の持続可能性を脅かすような変化が地球規模で加速しています。シーメンスは、これらサステナビリティ課題に対するソリューションとして、「現実世界とデジタル世界の融合」を提案しています。物理的な事象を仮想空間上に再現する「デジタルツイン」は、デジタル世界での緻密なシミュレーション・検証によって、お客様がより少ない資源で、より多くのことを成し遂げることを可能にします。このソリューションを駆使して、脱炭素や資源効率、人と社会へのアプローチといった、あらゆる側面でサステナビリティな価値向上を支援します。シーメンスは、顧客に貢献、技術に注力、権限委譲、成長志向という４つのプライオリティを掲げ、世界中で実践しています。

未来を形成する５つのメガトレンド

人口動態の変化

環境変化

都市化

デジタル化

グローカリゼーション

サステナビリティ課題へのアプローチ

脱炭素＆エネルギー効率性

製品のライフサイクルやサプライチェーンを通したエネルギー最適化、ビルやモビリティにおけるエネルギー利用の効率化など、幅広い領域で脱炭素をサポートします。

ヒューマン＆ソサイエティ

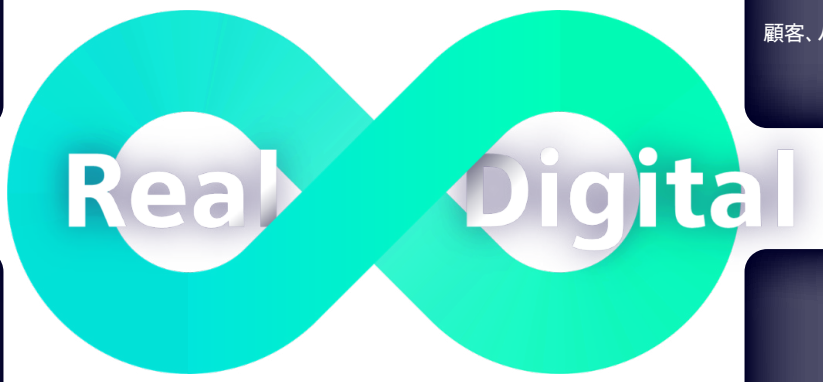
ビジネス現場とユーザーの利用現場の双方で、人間工学に基づく効率性や安全性、信頼性を追求。誰もが安心して豊かに暮らせる社会づくりに貢献します。

資源利用の効率性＆循環性

効率性と循環性の両側面から資源と材料の最適利用を提案し、社会におけるライフサイクルを長期化させることで、ビジネスと社会にサステナビリティを両立させます。

Customer impact
顧客に貢献
顧客が気づくより早くニーズを予測

Empowered people
権限委譲
顧客、パートナー、従業員への権限委譲を通じプロセスを推進



Technology with purpose
技術に注力
革新的技術がシーメンスの歴史と未来を築く基盤

Growth mindset
成長志向
学びや変化を受け入れることで明日を築く

デジタルツインを活用したDX提案をあらゆる領域へ

SIEMENS IN JAPAN

日本の文明開化から、ともに歩み続けてきた130年

シーメンスが東京・築地に日本初となる事務所を開設したのは1887年(明治20年)のこと。
当時の日本は、欧米列強に負けない国づくりを目指し、まさに国を挙げて産業振興に努めていた時期。
シーメンスが日本にもたらした通信、発電、照明などの近代技術は、
江戸時代末期にドイツから徳川幕府に献納されたシーメンス製「電磁式指針電信機」を端緒として、
日本の文明開化、そして近代国家への歩みを支える一助となりました。
以来、明治から大正、昭和、平成、令和と、いくつもの時代、そして幾多の戦火や災害を乗り越え、
シーメンスは130年以上にわたって日本の産業発展に貢献し続けてきたのです。

Top Message

日本企業のデジタル変革を支援し、ともに成長し続けるパートナーでありたい

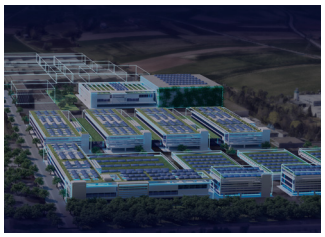
AIやIoTなど先端のデジタル技術を活用し、環境変化に柔軟に対応しながら生産性や価値創造力を向上させるDX(デジタル・トランスフォーメーション)の取り組みが世界的に加速しています。こうした環境変化のなか、シーメンスも従来のコングロマリット(複合企業)から、お客様のデジタル変革を支援するDXソリューション企業へと生まれ変わりつつあります。

日本においてもDXへの取り組みが加速していますが、一部の先進企業を除いては、独力での遂行が困難です。シーメンスは、ITとOT、ハードウェアとソフトウェアを融合した包括的なソリューションを提供できる、世界でも唯一の企業であると自負しています。130年という長きにわたり日本産業界の発展に貢献し続けてきたように、私たちはこれからも、日本企業の皆様に寄り添い、迅速かつ柔軟にソリューションやサービスを提供することで、ともに時代の変化にしなやかに対応し、サステナブルに発展していきたいと考えています。

シーメンス株式会社
代表取締役社長 兼 CEO

堀田 邦彦

デジタル インダストリーズ



スマート インフラストラクチャー

Siemens Healthineers [1]

シーメンス株式会社

シーメンスEDAジャパン株式会社

シーメンスヘルスケア株式会社

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

株式会社アクロラド

株式会社バリアン メディカル システムズ

1 シーメンスの上場子会社; Siemens Healthineers は各国で独自の組織、サービス、ガバナンスを展開

PRODUCTS & TECHNOLOGIES 1 : DIGITAL INDUSTRIES

産業界のDX実現のパートナーとして

デジタルインダストリーズ

デジタル技術の急激な進化・発展は、産業社会に大きな変革と新たな機会をもたらしています。シーメンスは、170年以上にわたって産業現場の電化・自動化に貢献してきた経験と、先進のデジタル技術を融合して、世界中の企業にデジタルトランスフォーメーション(DX)へのサポートをソフトウェア・ハードウェア問わずトータルに提供。お客様の企業価値最大化に貢献します。

お客様企業のDXパートナーとして、デジタルの力で効率向上に貢献

近年、産業界を取り巻く課題は複雑化、深刻化の一途をたどっていますが、その多くが資源の有限性に起因しています。限られた資源から、より多くの価値を生み出すために、世界中の企業がより効率的な事業運営を求められているのです。
こうした課題を解決するカギとなるのが、急激に進展するデジタル化です。デジタルデータは資源を消費することなく無限に活用できるため、リアルな事業活動をデジタルで代替することで、資源はもちろん、時間やコスト、人的リソースも含めて、飛躍的な効率化が可能になります。
現在、幅広い産業分野でデジタルを駆使した事業変革、すなわちデジタルトランスフォーメーション(DX)が進展している背景には、こうした効率化への期待があります。

シーメンスのデジタルインダストリーズは、技術や製品、ソリューション、さらにはカスタマーサービスまで、一貫したポートフォリオで企業のDX推進をトータルかつ柔軟にサポート。企業が直面する課題をしっかりと見据えて、バリューチェーン全体にわたって統合的なデジタル化を実現します。
また、世界的なイノベーションリーダーとして、AIやエッジコンピューティング、産業用5G、アディティブマニュファクチュアリング(積層造形)など、次代を見据えた先端技術の開発を牽引し、いち早くポートフォリオに組み入れています。
更には　これら最新の技術をシームレスに統合し、産業メタバースを構築することにより、シーメンスでは、シミュレーションを超えた生産の未来を描いています。

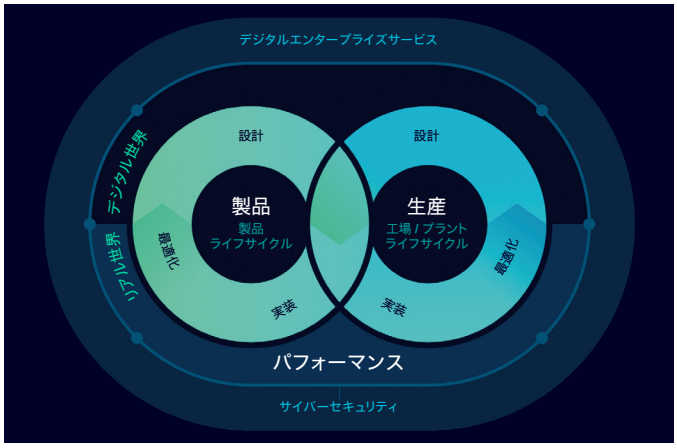
プロセス産業からディスクリート産業まで、幅広いモノづくり産業のDX推進をサポート

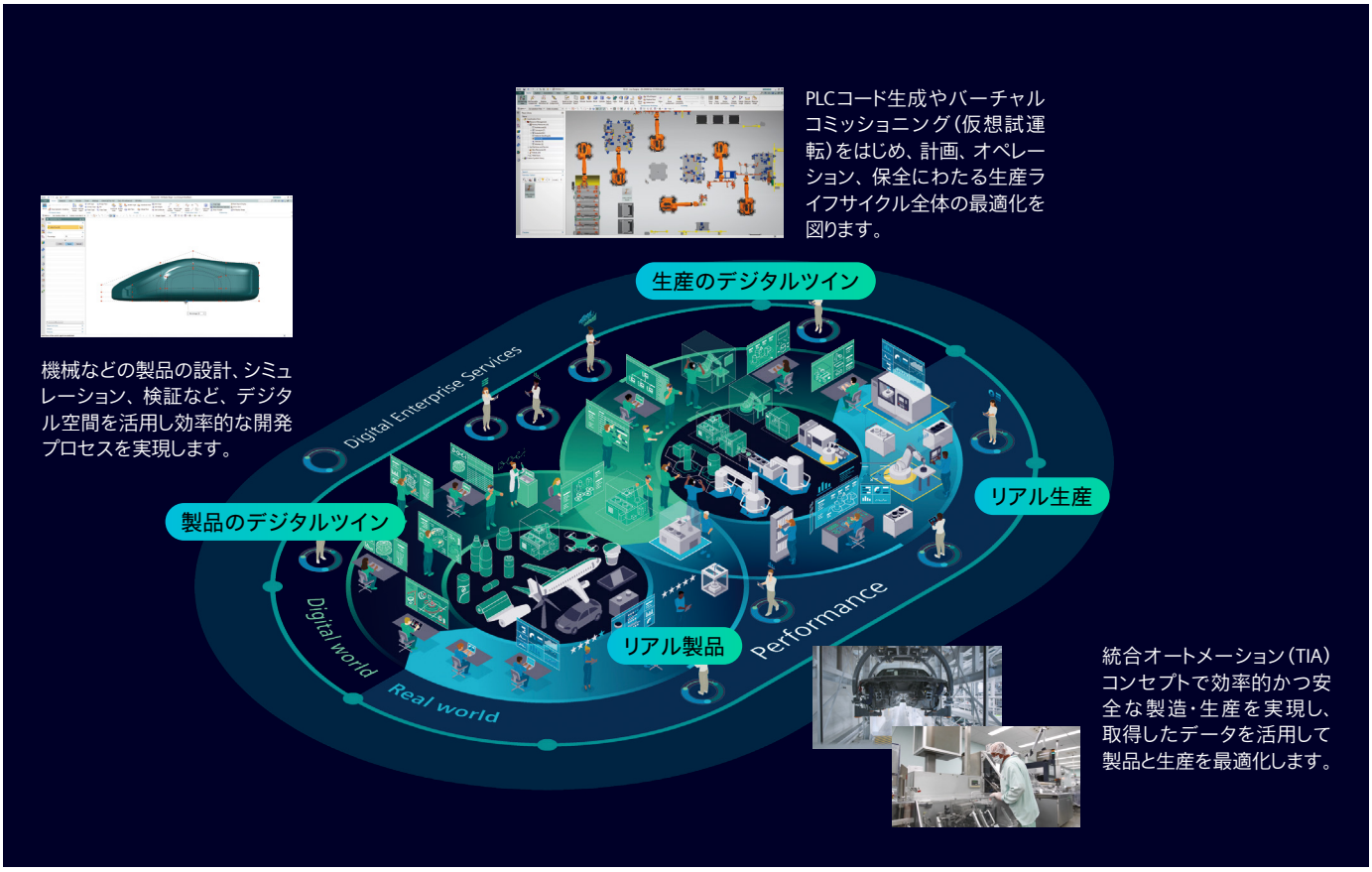
デジタルインダストリーズによるDXサポートは、企業の地域や規模、業種を問わず、世界中のあらゆる企業を対象とします。
特にモノづくり産業では、化学品など流体を扱うプロセス産業から、機器・装置など個体を扱うディスクリート産業まで、あらゆる分野に幅広く対応します。こうした幅広い対応力も、シーメンスの長年にわたる歴史と経験の賜物と言えるでしょう。

デジタルエンタープライズ構築をサポートし、産業界のDXを加速させます

デジタルの双子、「デジタルツイン」を駆使してリアル世界とデジタル世界を融合

産業社会のデジタル化は、企業の価値創造プロセスに大きな変革を起こし、各種の経営課題に対する効果的なソリューションをもたらします。
シーメンスのデジタルエンタープライズは、日々、大量に生成されるデータを収集・蓄積・分析し、絶え間ないデータの流れを「デジタルツイン」として構築することで、リアルとデジタルの世界の融合を実現し、DX実現への道筋を示します。
デジタルツインとは、リアル世界において製品と生産のライフサイクル全体から生成されるすべてのデータを、デザイン世界で再現した、いわば「デジタルの双子(ツイン)」。デジタルエンタープライズは、製品開発の最上流にあたるコンセプト立案に始まり、設計、試作、各種テスト・シミュレーション、製品の完成に至るまで、また、生産体制の設計・構築、更には生産設備の稼働まで、といったバリューチェーン全体を統合する包括的なデジタルツインを実現。そこから得られる大量のデータを解析し、課題解決や価値向上のための改善に役立てることが可能になります。
デジタルツインによって生成されたデータと、それに基づいて実現されるパフォーマンスの両者により、デジタルとリアルの連続的な無限ループが実現し、製品と生産体制を最適化し続けます。





バリューチェーンを通じた水平統合と
OT／ITの垂直統合により一貫したデータ利活用を実現

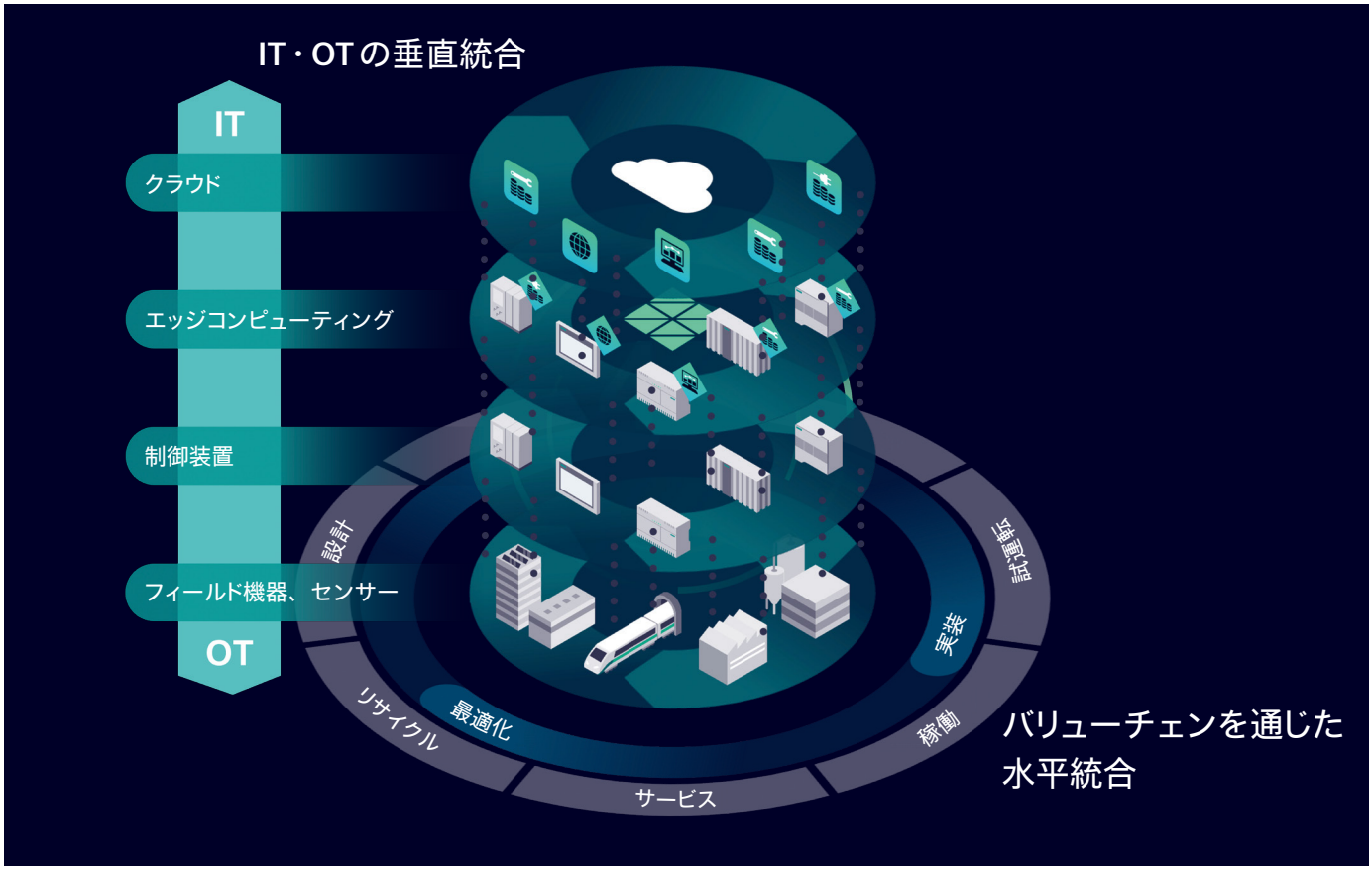
DXによって新たな価値を生み出せるかどうかは、企業内システムやIoTデバイス、ICT端末などに日々蓄積される膨大なデータを、いかに効果的に収集・整理・分析できるかにかかっています。そこで問われるのが、各種のシステム、デバイスに散在するデータを一括管理できるよう統合すること。

デジタルエンタープライズでは、統合オートメーション(TIA)コンセプトによりデジタルツインが生成・活用する多種多様なデータの、バリューチェーン全体を通じた「水平統合」を可能にします。

また、エッジコンピューティング技術「Siemens Industrial Edge」や、クラウドベースのIoTオペレーション「Insights Hub」、など、独自の先端技術を駆使して、フィールド機器からクラウドまで、OT(制御技術)とITを垂直に統合します。

こうした水平・垂直統合により、これまでバラバラだった各プロセスを連携させ、一貫したデータ利用を可能にし、ソフトウェアとハードウェア間のギャップをはじめ、OTとITとのギャップ、生産現場とマネジメント層のギャップなど、効率的なデータ活用を阻害していたあらゆるギャップを埋めることができます。

「無限のデータ」の包括的な活用により、「有限の資源」の効率的な利用を可能にし、産業をよりサステナブルなものにしていく── それがシーメンスのデジタルエンタープライズが持つ力です。



CASE STUDY

業種ごと、企業ごとに異なる課題を的確に捉え、最適なソリューションを提案

（掲載順は50音順）

■自動車業界　For Automotive Industry

株式会社デンソー（日本）に対し、DXによる自動車部品設計・開発業務の効率化を支援。

課題:

・高度化・複雑化する自動車部品の設計・開発プロセスを効率化し、開発時間の短縮や競争力強化を図りたい。

ソリューション:

・プロセスコンサルティングやシステムシミュレーションなど、開発業務を支えるソフトウェアポートフォリオの提供により、機能横断的なモデルベース開発プロセスを構築。

株式会社豊田自動織機（日本）に対し、アルミダイカスト部品の製造工程におけるDXを支援。

課題:

・温度や射出速度など製造条件が刻一刻と変化し、管理が難しいダイカスト製造の品質や効率を高めたい。

ソリューション:

・ダイカスト製造に関するビッグデータをもとに、製品の不良を予測するAIを開発。品質問題につながる設備以上を自動予測することで、不良品の発生を防止。

日産自動車株式会社（日本）に対し、新型EV生産ラインにおける検査工程のデジタル化を支援。

課題:

・自動車のインテリジェント化に伴い、ECU（電子制御ユニット）へのデータ書込みや車両電装品の検査など、正確性と迅速性が問われる業務負荷が増大。

ソリューション:

・最終検査工程における先進的な診断と、検査データマネジメントシステムソリューションSidis Proを導入し、高品質な車両生産をサポート。

■装置製造業界　For Machine Building Industry

ハインリヒ・ゲオルク社（ドイツ）の装置開発・製造工程における効率化を支援。

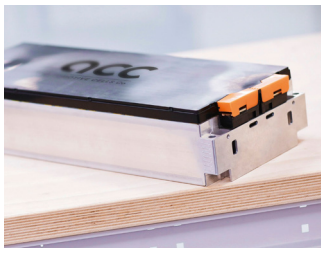
課題:

・実際に製造を開始するまでに実物を試作して試験を繰り返す必要があり、納品までに時間がかかる。

ソリューション:

・デジタルツインにより、試作を使った試運転や生産現場のトレーニングをデジタル空間で代替することで、飛躍的な効率化を実現。

■バッテリー業界　For Battery Industry



オートモーティブセルズカンパニー(ACC)(フランス)と共に持続可能なバッテリーセルのギガファクトリー生産実現を目指す

課題:
- 自動車用電池セルとモジュールの欧州リーダーになるために、バリューチェーン全体をカバーするバッテリー・エコシステム全体の確立が必要

ソリューション:
- 生産規模拡大と、エネルギー効率の最大化に向け　シーメンスのデジタルエンタープライズポートフォリオのハードウェアとソフトウェアを活用。第一歩として　設計と製造を繋ぐバッテリーと生産ラインの包括的なデジタルツインを作成。また、エネルギー管理ソリューションを導入。

明産株式会社(日本)の新規事業によるグローバルな事業展開をトータルに支援。

課題:
- 製紙業界で培った厚さ計などの高度な技術を駆使して、EV向けリチウムイオンバッテリー極材用膜厚計で世界へと事業拡大を図る。

ソリューション:
- IECやULなどの国際規格に準拠したシーメンスの製品・ソリューションを用いて、欧州や北米に向けたソリューション開発と実装が容易に。
- 制御技術や安全通信技術の提供で効率化やコスト削減を実現するとともに、電気品の標準化により部品在庫を大幅削減。

■製薬業界　For Pharmaceutical Industry

医薬品充填ラインを製造する株式会社ケーテー製作所(日本)のDXを支援。

課題:
- 医薬品の信頼性を確保するためにシステムをデータインテグリティに完全対応させ、データを改ざんや破損から保護したい。
- 海外展開や市場競争力の強化、工数および納期、コスト削減といった経営課題を包括的に解決したい。

ソリューション:
- 製薬業界に対するグローバルな実績を活かし、業界特有の要件に対応するデジタルソリューションを開発・提供。
- デジタルツインを駆使して機械設計、制御設計、コミッショニングにわたる設計業務プロセスの効率化を推進。
- シーメンス製HMIとそのオプションWinCC Auditを採用し、データインテグリティの完全対応実現。

ビオンテック社(ドイツ)の既存工場の迅速な転換を支援。

課題:
- 新型コロナウイルスワクチン生産のために、既存工場を迅速に転換し大規模生産を実現する。

ソリューション:
- 新製造実行システム(MES)の主要部分の導入を2カ月半で実現し、プロジェクトを予定の1年から5か月半に短縮。
- 従来の紙ベースのバッチレポートを廃止するなど、徹底したペーパーレス化により、必要なデータへのタイムリーなアクセスを可能にし、市場への投入時間を短縮。

■アディティブマニュファクチュアリング業界　For Additive Manufacturing Industry

HEXR社(U.K.)によるオーダーメイドのヘルメット製造を協働効率化。

課題:
- iPhoneアプリで競技者からスキャンしたデータを基に製造するオーダーメイド競技用ヘルメットの製造・納期短縮。

ソリューション:
- 3Dプリンターメーカー EOSと提携したアディティブマニュファクチュアリング(AM)工場を、デジタルツインを駆使して効率的かつ柔軟に運用。
- AMと既存ボリューム依存生産シナリオの比較による製品コスト低減。

■化学業界　For Chemical Industry

BASF社(ドイツ)の生産工程効率化と競争力向上をデジタルツインで支援

課題:
- 化学品業界を取り巻く環境変化に対応し、開発から生産に至る作業工程を迅速化したい。

ソリューション:
- プロセス制御システムSIMATIC PCS 7や、COMOS、SIMITなどのプロセス産業向けソフトウェアツールでプラント内に点在するデータを統合し、透明性と柔軟性を実現。
- 開発から生産に至るデータを一元化してバーチャルプラントを構築し、プラント全体の最適化と効率化に寄与。
- モデリングプラットフォームgPROMSによる解析と最適化で開発とパラメータ調整に要する時間を大幅短縮。

PRODUCTS & TECHNOLOGIES 2 : SMART INFRASTRUCTURE

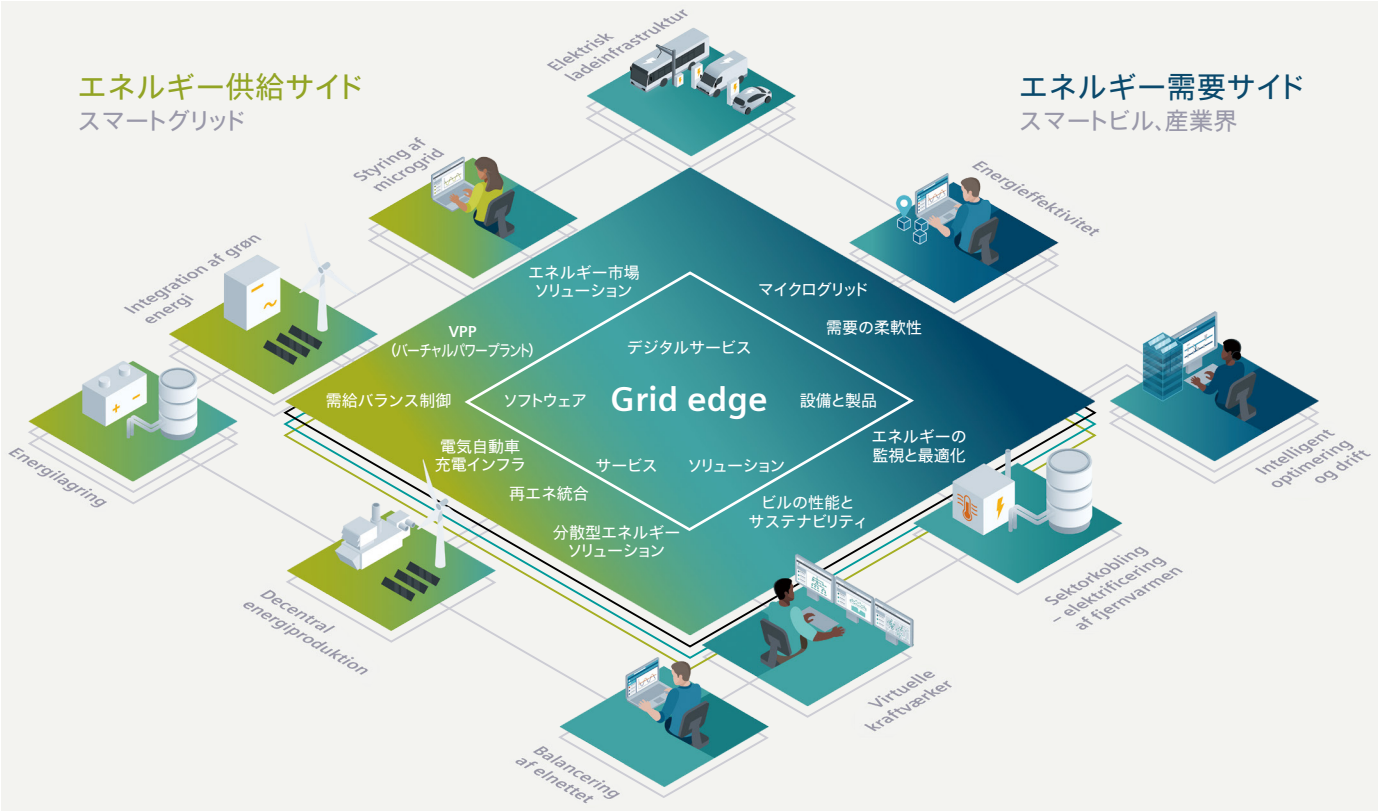
エネルギーとビル、産業をスマートにつなぐ

スマートインフラストラクチャー

デジタル化の波は、エネルギーやビルなど社会を支えるインフラ領域にも及んでいます。シーメンスは、これら両分野における豊富な経験とノウハウに先進のデジタル技術を融合させ、世界各地でスマートグリッドやスマートビルを実現。さらには産業界のエネルギーニーズとも連携させ、インテリジェントなエネルギー管理によって持続可能なインフラづくりに貢献しています。

「グリッドエッジ」におけるソリューション開発を軸に、エネルギー供給・需要の両面に新たな価値を提供します。

創エネや省エネ、蓄エネ、再エネなど、エネルギーを取り巻く課題は多岐に及び、エネルギーを供給する側、使用する側ともに、これら課題に対応し得る新たなエネルギーインフラを求めています。シーメンスは、発電から送電、配電に至るグリッド(電力網)全体を支える包括的な技術ポートフォリオに先端のデジタル技術を組み入れ、インテリジェントな管理・制御で電力を効率的に供給する「スマートグリッド」や、ビルなどの施設内における効率的な電力使用を実現する「スマートビル」など、供給・需要の両面に向けたソリューションを提供。近年では、電力網の末端にあたる需要家近くで稼働する分散型エネルギーソリューション「グリッドエッジ」を軸に、IoTやデータアナリティクスなどを駆使した新たなイノベーションを創造し、サステナブルな社会の実現に貢献しています。



スマートインフラストラクチャーの広範な製品

電気用品

- 低圧保護装置(例：ACB[1]、MSP[2])、スイッチングデバイス(例：ソフトスターター、コンタクター)、測定と監視装置
- 低圧配電盤とシステム
- 中圧真空遮断器、コンタクター、インタラプター
- 配電器具

配電システム

- 中圧ガス絶縁、空気絶縁スイッチギア(屋内、屋外)
- 低圧配電盤、モーターコントロールセンター、バスバートランキングシステム
- PV[4] インバーターシステム
- EV 充電インフラ
- 配電ソリューションとサービス

地域のソリューションとサービス

- ビルオートメーション、防火、セキュリティその他のソリューションとサービス
- エネルギーとパフォーマスソリューションとサービス
- 分散型エネルギーシステム
- 職場環境のソリューションとサービス
- デジタルサービス
- 特定市場向け(例：データセンター、生命科学、スマートオフィス)クラウドとオンプレミスのソフトウェア

ビル関連製品

- 火災探知、報知、避難、消火を含む防火
- ビル、ルームオートメーション、照明制御、HVAC[3] OEM オートメーション
- センサー、バルブ、アクチュエーター
- ビル管理自動化ソフトウェア防火、セキュリティ、サードパーティー統合
- セキュリティソフトウェア、ビデオ、アクセス、不法侵入、コントロール
- コネクティビティ、データ分析、ビルディングツインを含むスマートビルのためのクラウドアプリ

デジタルグリッド

- 変電所向け自動化、保護、測定、通信システム
- グリッド運用と制御
- スマートグリッド向けアプリ、分析 /IoT 製品と管理サービス
- グリッド計画とシミュレーションソフトウェア
- 電力システムコンサルティング、エネルギー事業アドバイザリー
- 測定データ管理および分析
- グリッドレジリエンスソフトウェア
- グリッドエッジソフトウェア

1 ACB : air circuit-breaker
2 MSP : motor starter protector
3 HVAC : heating, ventilation and air conditioning
4 PV : photovoltaics

SUSTAINABILITY

サステナブルな社会への貢献を目指して

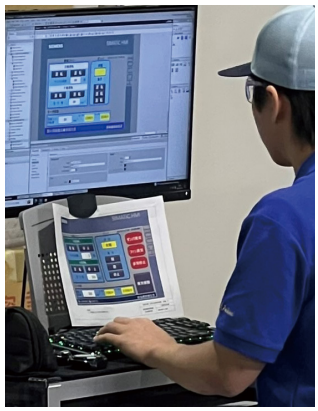
サステナビリティはシーメンスのDNAの1つであり、自らの事業活動に深く組み込まれています。近年では、「DEGREEフレームワーク」に基づき、ESGに関する各種テーマについて、それぞれ具体的な課題と目標を設定し、その実現に取り組んでいます。
一方で、培ってきた多様な技術を駆使して、お客様のサステナビリティ向上にも貢献してきました。日本においても、政府・公共機関の職業訓練、大学等の講座を通じ、日本の持続可能な産業技術の発展や人材育成を支援しています。さらに、国連グローバル・コンパクトへの参加をはじめ、世界的な枠組みにおいてリーダーシップを発揮。今後も世界中のお客様とともに、サステナブルな社会づくりに貢献し続けます。

海外事例

スイス：スマート ネットゼロ ハイテクキャンパス
- ツーク中心部に生産棟、研究開発棟、オフィス棟を擁するネットゼロキャンパスを設立
- 3,500枚、6,100m²におよぶ太陽電池モジュールによる1,300MWhもの年間発電量
- 100％再生可能エネルギー：ヒートポンプと湖水による冷暖房

メキシコ：オール電化製造ハブ
- オール電化設計、100％再生可能エネルギーによるオペレーション
- LEEDゴールド認証のグリーンビルディング
- 500kWの太陽光発電モジュールを搭載したソーラーカーポート
- 高度な雨水管理と水使用削減対策

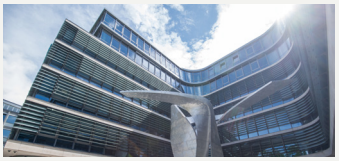
国内事例



- シーメンスケアリングハンズ共済基金を通じて、日本の従業員が世界各地の紛争・被災地への援助を実施
- デジタル人材の育成を支援する「アカデミックパートナープログラム」を日本で毎年2,000名以上に実施
- 技能五輪全国大会を支援、日本の若い技術者の技能向上に寄与

シーメンスのサステナビリティ活動への評価

シーメンスのサステナビリティ活動は、Fortune誌の「世界で最も賞賛に値する企業」で2016年から5年連続で1位、コーポレートナイツ社の「世界で最も持続可能な100社(Global100)」でも2017年に1位に輝くなど、世界的な評価を獲得。外部機関の格付けでも高い評価を得ています。また、2021年にはドイツのアンベルク工場が、世界経済フォーラムから世界で最も先駆的な工場「ライトハウス」に認定されました。



CDP
10年以上にわたり気候変動分野で上位リスト入り(A/A-)

ISS ESG
「ESG Corporate Rating」で2016年以来「Prime」評価

Dow Jones
20年以上にわたりWorld Index(上位10%)の構成銘柄

Sustainalytics
「カーボン製品とサービス」リスク管理部門で高評価

MSCI
過去5年継続して上位格付(AAA/AA)8年以上

EcoVadis
1％にあたる「ゴールド」評価

「DEGREEフレームワーク」に基づくサステナビリティ活動

Decarbonization／脱炭素

1.5℃目標を支持し、地球温暖化の抑制に挑みます。

【目標】
- ネットゼロオペレーションを推進し、CO_2e排出を2025年まで55％、2030年までに90％削減
- サプライチェーンにおいて2050年までにネットゼロを実現、2030年までにCO_2e排出を20％削減

【実績】
- 自社事業におけるCO_2e排出量を50％削減(2023年度、2019年度比)
- お客様によるCO_2e排出量を年間約1億9,000万トン削減(2023年度)

Ethics／倫理性

信頼に基づく文化を促進し、倫理基準を遵守します。

【目標】
- シーメンス「ビジネス行動ガイドライン(BCG)」に関する教育を3年サイクルで全社員に実施

【実績】
- BCG教育の新サイクルがスタートし、初年度で全世界の従業員の71％に展開(2023年度)
- サイバーセキュリティ促進を目的に設立された「Charter of Trust」に参画
- 「Integrity Initiative」として汚職や詐欺と闘う組織などに1億2,000万ドルを支援

Governance／ガバナンス

強固なガバナンス体制を構築し、
効果的で責任あるビジネス行動を徹底します。

【目標】
- サプライヤーから「サプライヤー行動規範」へのコミットメントを取りつけ、サプライチェーンのESG対応体制を整備
- シーメンス独自のESG基準に基づく長期インセンティブの付与

【実績】
- ESGやサステナビリティに対する強固なガバナンス体制を構築
- 行動規範に対するサプライヤーからのコミットメント100％を維持(2023年度)
- ESG関連リスク分析用にAIベースのデューディリジェンスツール「ESGレーダー」を導入

Resource efficiency／資源効率性

限りある資源に配慮し、資源循環と脱物質化を実現します。

【目標】
- 2030年までにシーメンス全製品について、次世代ロバスト(堅牢性)・エコデザイン化を実現
- 原料金属と原料樹脂について再生品の購入を拡大し、自然資源からのデカップリングを実現
- 資源循環の実現に向けて、埋立処理廃棄物を2025年までに50％削減、2030年までに全廃へ

【実績】
- ロバスト・エコデザイン化された製品の比率が51％まで上昇(2023年度)
- 事業所におけるエネルギー使用量を年間9％削減(2023年度、2021年度比)
- 廃棄物総量に占めるマテリアルリサイクル比率は81％、廃棄物埋立率を15％削減(2023年度、2021年度比)

Equity／公平性

ダイバーシティ、インクルージョンおよび
コミュニティの構築を促進します。

【目標】
- 2025年度までに経営トップにおける女性比率を30％に
- 従業員持株制度へのアクセス:高水準を維持し、100％(※1)を目標にグローバルに拡大
- ニューノーマルワーキングモデル(※2)へのグローバルなコミットメント

※1 法的に可能かつ合理的な場合
※2 可能であれば世界中の従業員が平均週2～3日間リモートワークを実施

【実績】
- 経営トップに占める女性比率が31.1％に増加(2023年度、2025年度目標を前倒しで達成)
- 従業員持株制度へのアクセス率は99.9％となり、約17万人の従業員が株主に(2023年度)
- グローバル寄附総額4,320万ユーロ(2023年度)

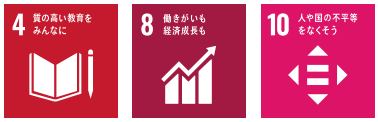
Employability／雇用適応力

社員が環境変化に適応し、
必要な価値を提供し続けられるよう支援します。

【目標】
- 従業員1人あたりのデジタル学習時間を2025年までに25時間／月に増加
- 従業員支援プログラムへのアクセス:高水準を維持し、2025年度100％を目標にグローバルに拡大
- 2025年までにシーメンスのグローバルのLTIFR(※1)合計を30％改善

※1 LTIFR:Lost time injury frequency rate(休業労働災害度数率)

【実績】
- 従業員1人当たりのデジタル学習時間が前年比2時間増の23時間／月に(2023年度)
- 従業員の教育・訓練に4億1,600万ユーロを投資(2023年度)
- デュアル・スタディ・プログラムに約5,800名の技能実習生を受け入れ(2023年度)
- 労働安全衛生の推進により、グローバルのLTIFRが26％減(2023年度、2020年度比)



COMPANY HISTORY

シーメンスの沿革

Society

～1900

1840年
- 中国(清)でアヘン戦争が勃発

1868年
- 日本が明治維新を迎える

20世紀前半

1914年
- 第一次世界大戦が勃発(～1918)

1939年
- 第二次世界大戦が勃発(～1945)

20世紀後半

1969年
- アポロ11号による人類初の月面着陸

1975年
- ベトナム戦争が終結

Global

1847年
- ヴェルナー・フォン・シーメンスがベルリンにてシーメンス・ウント・ハルスケ電信機製造会社を設立

1855年
- ロシアに初の現地法人を設置し、その後も積極的に世界へ進出

1903年
- 強電事業を担うシーメンス・シュッケルトヴェルケ社を設立

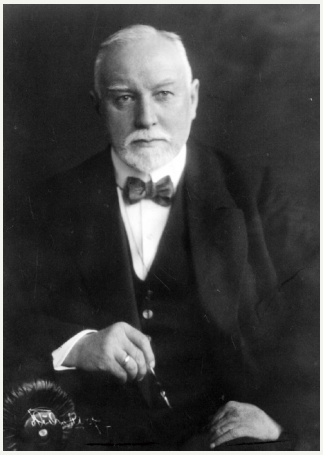
1932年
- 医療用電気・電子機器事業を担うシーメンス・ライニガー社を設立

1966年
- シーメンス・ウント・ハルスケ、シーメンス・シュッケルトヴェルケ、シーメンス・ライニガーの3社が統合、シーメンスAGとなる

Japan

1861年(万延元年)
- 修好通商条約の締結に際して、ドイツから徳川幕府にシーメンス製の電磁式指針電信機が献納される

1887年(明治20年)
- 東京・築地に日本で最初のシーメンス事務所を開設(8月1日)



日本事務所を開設した
ヘルマン・ケスラー

1923年(大正2年)
- 富士電機製造株式会社を創設、古河とシーメンスによる最初の日独提携事業

1935年(昭和10年)
- 富士電機製造株式会社の電話部および通信機器関連事業を継承し、富士通信機製造株式会社を設立(現在の富士通株式会社)

1970年(昭和45年)
- 日本シーメンス株式会社が設立(10月1日)

1979年(昭和54年)
- 日本シーメンス株式会社がシーメンスAG日本代表部の業務を統合し、シーメンス株式会社となる(4月2日)

1999年(平成11年)
- シーメンスAGと株式会社安川電機の提携により、安川シーメンスオートメーション・ドライブ株式会社が設立

2000年代

2001年
- 米国で同時多発テロ

2008年
- リーマンショックによる世界的な金融危機

2007年
- シーメンスAGがインダストリー、エナジー、ヘルスケアの3セクターに組織を再編

2007年
- シーメンスAGがUGS PLMソリューションズを買収し、シーメンスPLMソフトウェアとしてインダストリーセクターの傘下に置く

2010年代

2011年
- 日本で東日本大震災が発生

2013年
- シーメンスAGがLMSを買収

2016年
- シーメンスAGがCD-adapcoを買収

2017年
- シーメンスAGがMentor Graphicsを買収
- シーメンスAGがTASS Internationalを買収

2018年
- ヘルスケア事業をSiemens Healthineers AGとして上場
- 2014年に発表した「Vision2020」の早期目標達成を受けて「Vision2020＋」を発表

2020年代

2020年
- 新型コロナウイルス感染症が拡大

2020年
- エナジー事業をシーメンス・エナジーAGとして上場

2021年
- メカニカルドライブ事業会社フレンダーGmbHを売却

2000年(平成12年)
- シーメンス・オートモーティブ株式会社を設立し、シーメンス株式会社のオートモーティブ事業を移管(2001年にシーメンスVODオートモーティブ株式会社に社名変更)
- 株式会社安川電機との合弁による安川シーメンスNC株式会社を設立し、シーメンス株式会社のCNCシステム事業を移管

2009年(平成21年)
- 安川シーメンスNC株式会社の出資比率をすべてシーメンス株式会社に変更

2010年(平成22年)
- シーメンス株式会社がシーメンス・ジャパン株式会社と合併、社名はシーメンス・ジャパン株式会社に

2011年(平成23年)
- シーメンスプロダクトライフサイクルマネジメントソフトウェアJP株式会社がシーメンスインダストリーソフトウェア株式会社に社名変更

2015年(平成27年)
- 日本での組織を再編
- シーメンスインダストリーソフトウェア株式会社がシーメンス株式会社に社名変更し、シーメンス・ジャパン株式会社からヘルスケア以外の全事業を譲受
- シーメンス・ジャパン株式会社はヘルスケア事業に特化し、翌年にはシーメンスヘルスケア株式会社に社名変更

2017年(平成29年)
- 風力発電＆再生可能エナジー事業をSiemens Wind Power Pty Ltd.に譲渡

2018年(平成30年)
- TASS International株式会社を統合
- モビリティ事業を欧州のグループ各社に譲渡
- 安川シーメンスオートメーション・ドライブ株式会社からモーションコントロールおよびラージドライブ事業を譲受

2020年(令和2年)
- シーメンス・エナジー株式会社が発足し、同社にガス＆パワー事業(旧パワー＆ガス事業、パワージェネレーション・サービス事業)を譲渡

2021年(令和3年)
- フレンダー株式会社が発足し、同社にメカニカルドライブ事業を譲渡
- Siemens Process Systems Engineering Limited(英国法人)より、日本国内におけるアドバンスト・プロセス・モデリング・テクノロジー事業を譲受

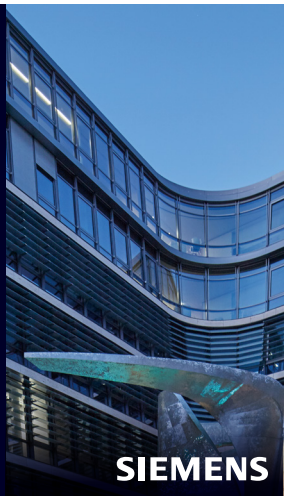
2022年(令和4年)
- シーメンスPLMソフトウェア・コンピューテイショナル・ダイナミックス株式会社がシーメンス株式会社と合併

DATA

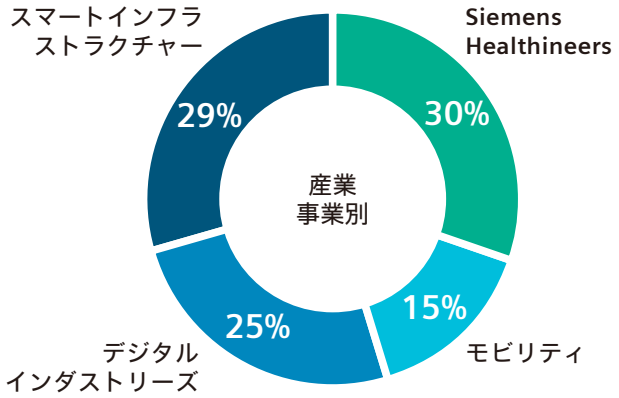
シーメンスAGについて

312,000 従業員数[1,2]	**€759億** 売上高	**€841億** 受注額
€90億 純利益[3]	**15.5%** 利益率 インダストリービジネス	**€95億** フリーキャッシュフロー[3]

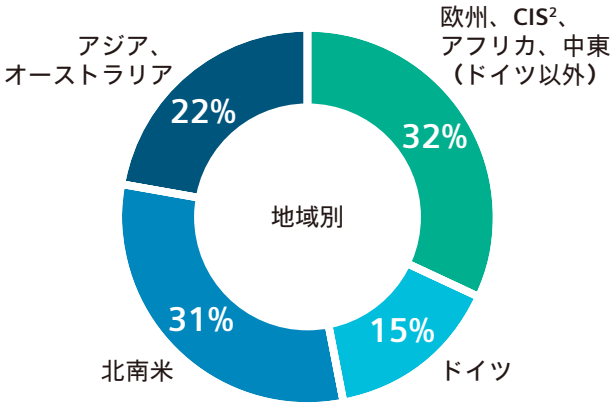
1 2024年9月30日 | 2 継続的な運用 | 3 継続事業と廃止事業



産業事業別売上高[1]



地域別売上高[1]



1 四捨五入 | 2 Commonwealth of Independent States |
注：四捨五入のため、数値の合計が100% にならない場合があります

NETWORK

日本のグループ会社概要

シーメンス株式会社

〒141-8641　東京都品川区大崎1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワー
www.siemens.com/jp

■ デジタルインダストリーズ

〒141-8641　東京都品川区大崎1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワー
www.siemens.com/jp/ad

■ デジタルインダストリーズ ソフトウェア（製品ライフサイクル管理）

〒151-8583　東京都渋谷区代々木2-2-1
小田急サザンタワー
www.siemens.com/plm

■ スマートインフラストラクチャー

〒141-8641　東京都品川区大崎1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワー
https://www.siemens.com/jp/ja/products/energy.html

シーメンスEDAジャパン株式会社

〒140-0001　東京都品川区北品川4-7-35
御殿山トラストタワー
TEL：03-5488-3001
www.mentorg.co.jp

Siemens Healthineers　関連会社

■ シーメンスヘルスケア株式会社

〒141-8644　東京都品川区大崎1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワー
TEL：03-3493-7500
https://www.siemens-healthineers.com/jp/

■ シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

〒141-8673　東京都品川区大崎1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワー
TEL：03-3493-7500
https://www.siemens-healthineers.com/jp/

■ 株式会社アクロラド

〒904-2234　沖縄県うるま市州崎13-23
TEL：098-934-8960
www.acrorad.co.jp

■ 株式会社バリアン メディカル システムズ

〒141-0032　東京都品川区大崎1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワー
https://www.varian.com/ja

発行人:シーメンス株式会社
〒141-8641
東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー
www.siemens.com/jp

© Siemens 2025　2025年1月改訂